

事業所名 グループホームいよしの家福吉町
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 1月13日

評価機関名 ㈲東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 看護師、介護支援専門員
資格・経験 看護師(37年以上)、介護支援専門員
B:現職 元介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) 1) 「基本的人権の保護」、「家庭的な生活」、「生きがいのある生活」が基本理念である。 2) 基本的人権の保護としては、「発語がなくても相手の言っていることは分かる」を念頭に、不用意な言葉がけはせず、信頼関係を築くよう心がけている。介護に抵抗や暴言を吐いていた方が、家庭的な環境の中で存在を認める対応に努めたところ、大人しくなり穏やかさを取り戻されている。 3) 「これからの人生をゆっくり、ゆったり、歩んでいって欲しい」を合言葉に、家庭的な生活が送れることを最も大切にしている。その人のペースを守ることが重視し、家庭の延長線で見守りながら過ごせるように配慮している。 4) 生きがいのある生活が送れるよう外出しやすい雰囲気作りを努めている。庭の一角に菜園があり、芋掘りや玉ねぎなどの収穫の喜びを皆で味わうことで心の癒しが出る。入居者の趣味や生活歴を把握し、残存能力を生かして日常生活の中で家事や手伝いが自然にできるように援助し、できること、できたことに対して、「ありがとう。助かったわ。」と褒めたりお礼を言うなど、「自立支援」を促すことをサービスの基本としている。入居時には下肢の力が弱って何もする意欲がなかった方が、車いすから杖歩行ができるようになっていた。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) 1) 居間のメインリビングに隣接した畳スペースには炬燵があり、自分の部屋の布団を干している時や足腰が疲れた時は、ごろりと横になり自由に過ごすことができる。ゆったりとしたソファもあり、共有空間の中にも自分の好きな居場所を見つけることができる。仲良く他の方の部屋を訪問されている方もおられた。 2) 入居者の表情に満足そうな感じが見られるのは、個人に合った生活のリズムを大切に、できるだけ今までの生活スタイルを続けられるよう、一人ひとりのペースに合わせた温かい見守りのケアによると思われる。 3) タ方帰宅願望を訴える方には、その方の世界に入って訴えを聞き、共に行動しながら、改めて納得するまで寄り添うケアが行われている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の間やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人ですることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述) 1) 住宅地に囲まれ、すぐ隣に春には桜が咲く公園がある。暖かい時には、入居者の散歩や近隣の人との交流の場にもなっている。オーシャンブルーの咲く垣根越しに小さな花や野菜が生きて育っており、心が和む環境である。高齢者の身体的状況や生活パターンをよく理解したホームの設計で、設備も整っている(玄関前のスロープ、居間から続くウッドデッキ、エレベーター、床暖房のある浴室、全身が洗えるシャワーチェアなど)。 2) 2人の職員で1人の入居者を受け持ち、ケア計画から身回りのお世話まで責任を持ってさせていただく体制をとっている。個人を尊重して自然な日常生活が送れるよう支援しながら、職員もタイムスケジュールに追われることなく、入居者一人ひとりに寄り添い、残存能力をうまく引き出すような自立を促す介護の姿勢が強く感じられた。 3) 入居者の生活に対する興味や選択の機会を増やすため積極的に外出を行い、社会からの疎外感をなくす介護努力がなされている。隣の公園内に町内の集会所があり、その利点も生かして郷人会の踊りや銭太鼓の披露がホームでされるなど、地域との交流も自然に育まれている。 4) 連携医療機関の「青木内科小児科」への定期受診、緊急時には近くの労災病院まで受診するなど、普段の健康管理から緊急時の対応まで医療との連携が取れている。毎週土曜日は「あいの里クリニック」から歯科の往診がある。昼食前のリラクゼーション「バタラカ」発声練習を始めとして、歌を交えた嚥下体操を行い、歯科衛生士と入居者、職員が本当に楽しそうに過ごされていたのが印象的だった。 5) 生活保護の方も受け入れ、家賃も低めに設定されている。自立支援の成果で、入居中に要支援や自立になる方もおられる。身寄りのない方には次の受入先としての施設をお世話するなど、退所後の生活にも気を配っていた。
特に改善の余地があると思われる点(記述) ・特になし

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) 1) 入居者の生活歴・職歴・趣味を把握し、これまでの人生経験を尊重しながら、現在に生かせる趣味ややりたいことは何かを見つけて、意欲や希望の表出につなげている。写経をすることで落ち着かれる方が自分の部屋や居間などの共有空間に展示されていた。リュウマチで手が不自由でも昔から好きだったちぎり絵で誕生会やお正月の飾り絵にとりくまれる方もいた。畑仕事をされる男性もいて、玉ねぎ、白菜など季節の野菜が作られていた。 2) 生活をこなす中でそれぞれの残された力を大切に、一人ひとりが何らかの役割を持って暮らせるよう配慮している。洗濯物をたたんだり、掃除したり、調理の下準備や後片付けの手伝いをさせていた。 3) 職員は基本的事項として、入居者のプライバシーは責任を持って守るという事を誓約している。スタッフ全員が個人の尊厳を守る事をケアサービスを提供する上で一番重視している項目として念頭に置き、どんな場面でもプライドを保てるよう、さりげない介護を心がけている。身寄りのない方が比較的多い中、皆家族の一員として暖かい心で接遇されており、入居者が皆笑顔で生き生きと満足そうにされていることからうかがえた。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) 1) 入居者の個人記録は、第三者から見ても日頃の状況が読み取れる記録で、職員・家族が協力して問題点の気づきに努めており、入居者の状態の安定向上に向けて関心が高い。入居者・家族の満足度を評価したモニタリングシートを取り入れ、日常生活支援プラン表を改善し、入居者への個別援助がより適切に出来るようになっている。 2) 採用後1ヶ月以内の研修(薬剤・認知症の理解と対応、介護など)で意識や技術の向上に努めている。その後の研修は3ヶ月に1回の割合で行っている。感染症や救急蘇生、厚生労働省からの制度の変化の適正などについて本社から講師を招いて研修を行い、感想をレポート提出するなど職員の継続教育による自己研鑽に努めている。ヘルパー研修も受け入れている。 3) トラブル発生を繰り返さないために、事故は軽いものでもインシデントレポートに記録し、ケースの振り返りから再発防止への対策を職員全体で検討している。今のところ重大な事故は発生していない。		